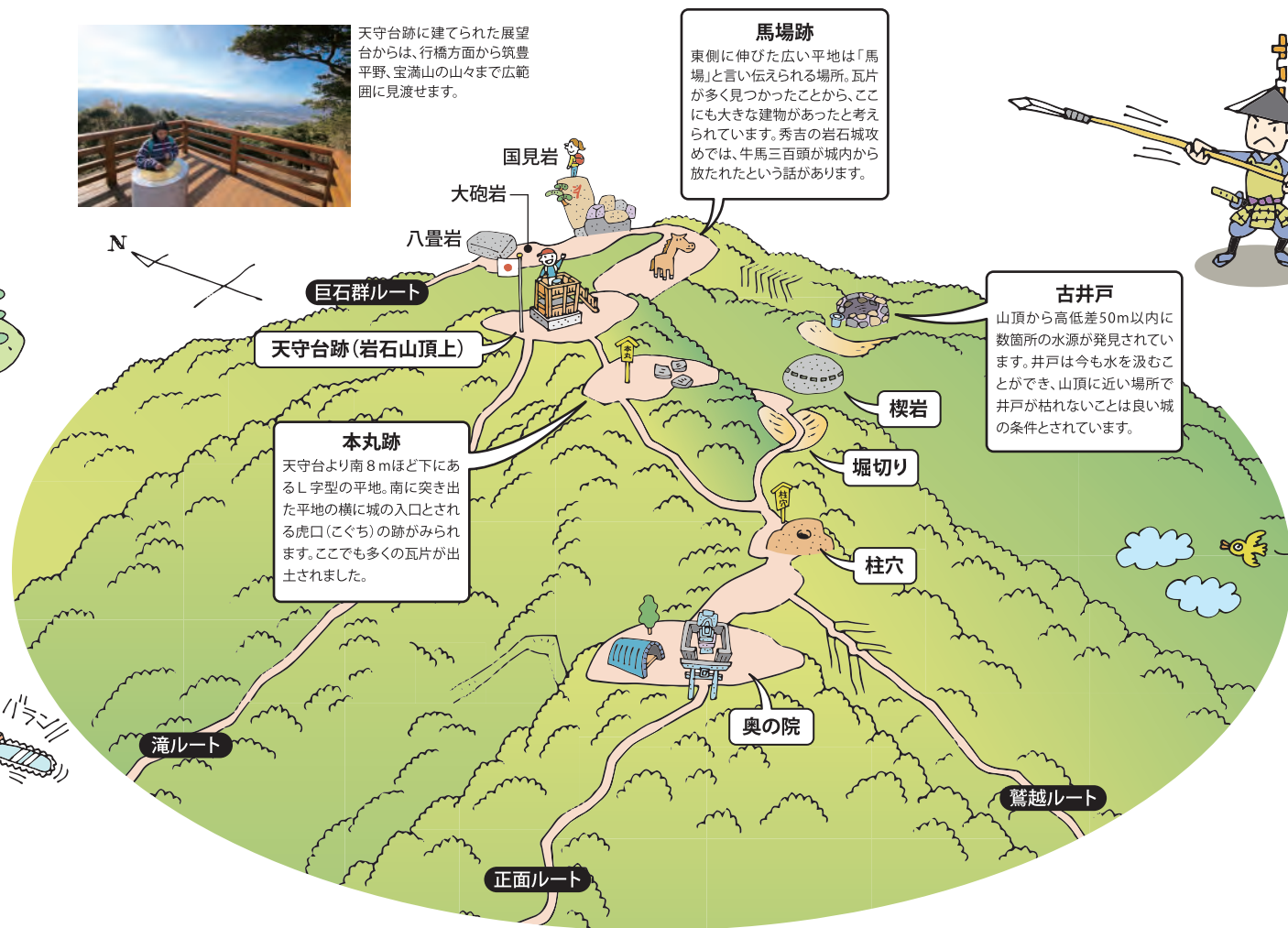


岩石城跡を歩いてみよう！

今からおおよそ400年前まで、岩石山の山頂には「豊前一の堅城」と称えられた山城「岩石城」がありました。今でも奥の院(400m付近)から山頂(454m)にかけては、山城特有の名残を見つけることができます。城を守った武将たちの気持ちを想像しながら歩くと、またひと味違う山登りが楽しめます。



馬場跡

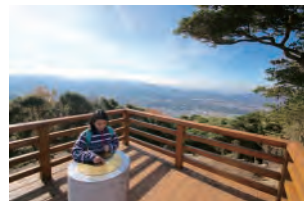
東側に伸びた広い平地は「馬場」と言い伝えられる場所。瓦片が多く見つかったことから、ここにも大きな建物があったと考えられています。秀吉の岩石城攻めでは、牛馬三百頭が城内から放たれたという話があります。

古井戸

山頂から高低差50m以内に数箇所の水源が発見されています。井戸は今も水を汲むことができ、山頂に近い場所で井戸が枯れないことは良い城の条件とされています。

本丸跡

天守台より南8mほど下にあるL字型の平地。南に突き出た平地の横に城の入口とされる虎口(とぐち)の跡がみられます。ここでも多くの瓦片が出土されました。



天守台跡に建てられた展望台からは、行橋方面から筑豊平野、宝満山の山々まで広範囲に見渡せます。



尾根を切った堀割りを造ると、横の本線動が楽になる！

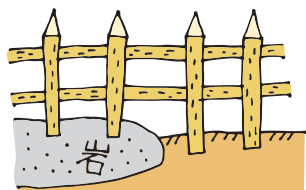
堀切り(ほりきり)

逆茂木(さかもぎ)

木を切り倒して枝の先を尖らせ防衛に使う！



「柱穴、こんな感じで作ったんですかね？」



柱穴(ちゅうけつ)



柱穴(ちゅうけつ)

山道沿いに花崗岩にかけられた直径20cmほどの穴がいくつも並んでいます。「逆茂木」など外部からの侵入を防ぐための柵が立てられた場所だったと考えられています。



瓦片

山頂付近を歩いているとそこかしこに見つかる瓦の破片。小倉藩の最初の藩主だった細川忠興が治めていたころ、岩石城に使われていた瓦だと考えられています。



堀切り

左右対称V字に削られた谷。ここは敵の侵入路となる山の稜線を断ち切る防衛策として人為的に造られた「堀切り」です。何も知らないと普通の谷間にしか見えません。



楔岩(くさびいわ)

四角い穴の列は、岩を割るための楔を打つために開けられたものです。岩石城跡で見られる楔跡は、戦国末期から江戸初期の築城に見られる石切技術で「矢穴」ともいいます。



眼下の平地を埋めつくした秀吉軍にビビったさな